



繪本琉球軍記

初篇

三

~ 13
3554
3



門 13
號 3554
卷 3



繪本琉球軍記卷之三

目錄

爲朝開宴饗應三軍

忠久琉球征伐蒙台命

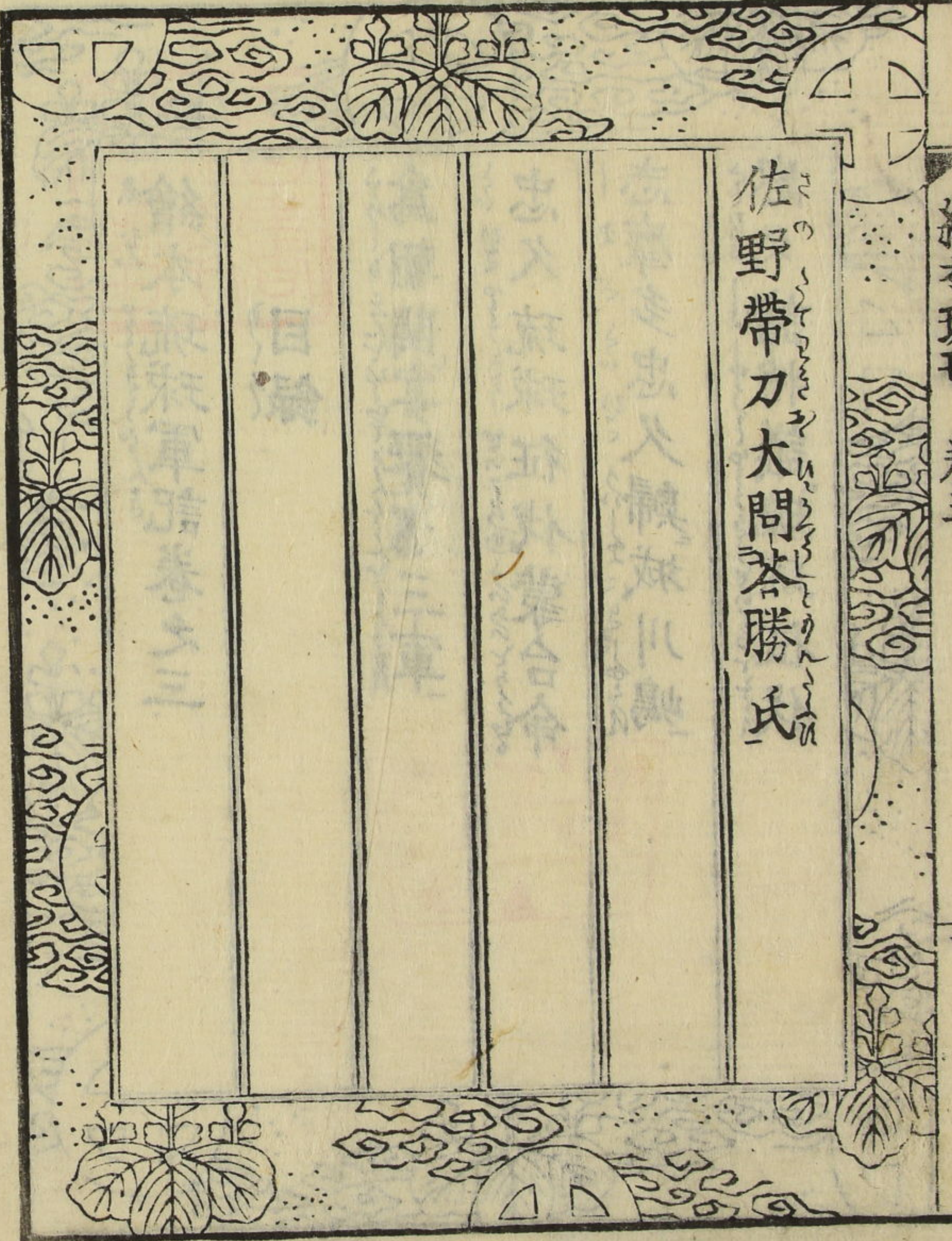
志摩多忠久歸城川嶋

忠久諸將議琉球征伐

繪本琉球 卷之三

早稲田大學圖書館
33.11.10 受
藏書

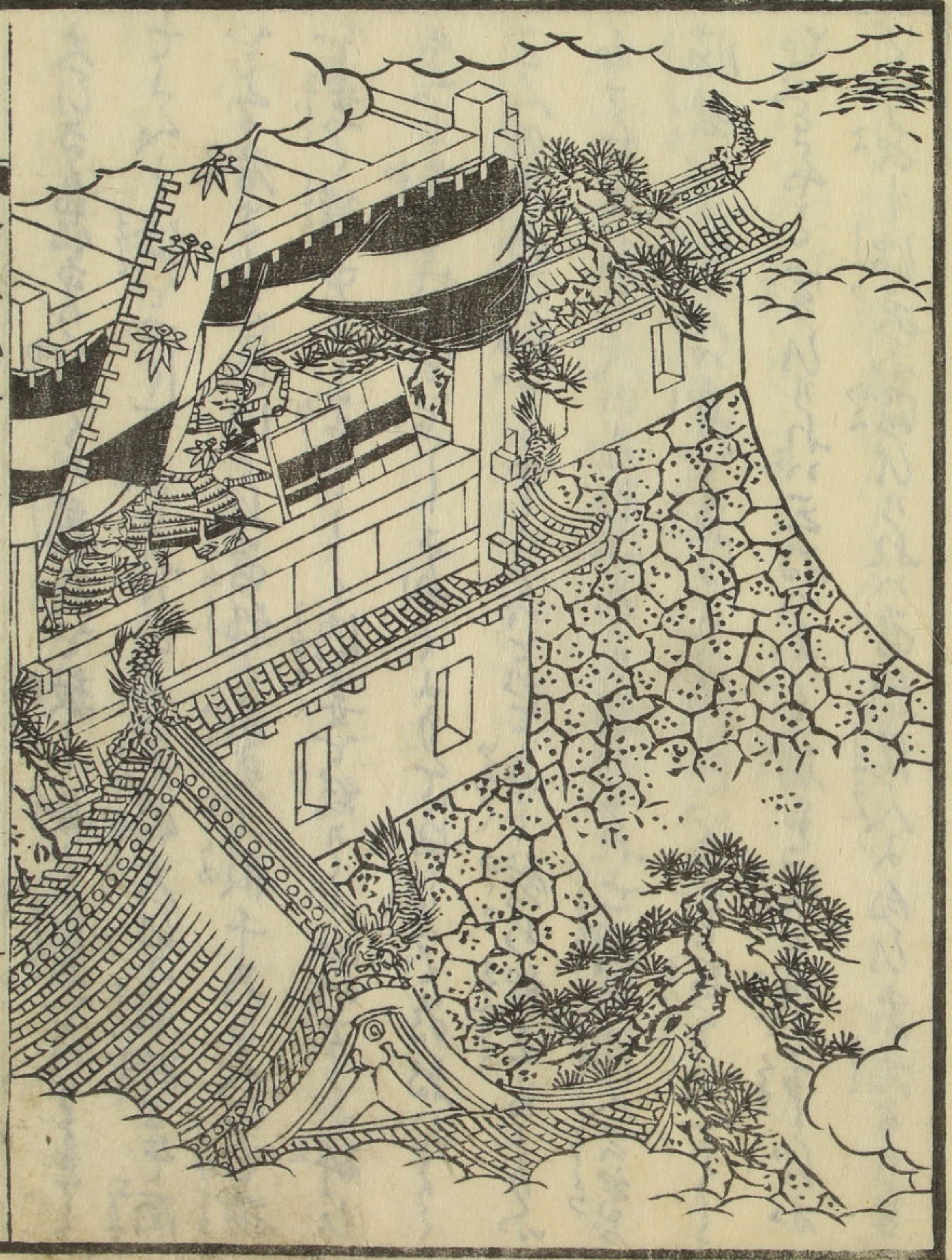
佐野帶刀大問答勝氏



繪本流球軍光初篇 卷之三

爲朝因宴廻信三軍

去むとふ為朝の思ふ存分計を用い大将三人并小一十五
 百余人の軍勢を人一騎も換せぬ安くと生捕りれば先
 本丸におかれて突々しく酒宴を設け為成須藤三丁原
 吉田子取ふ命令とて生捕と悉く呼び出させ為朝自
 伊周院に於て見減ま二人の縄とてを恭しく礼を
 引て程よ小落とて中りの吾元末足下達とい知れ定て
 他の織兵あつんと思ひゆらり謀計を設けりし又却て
 是賦收れ友人あつんとい承得て公等小うる辱とるべし



爲朝 八陣 布 三將 伏る 圖





志テ多ク忠久
 頼朝之小
 湯一々
 琉球征伐の
 台命と
 紫むの回

平^{とら}及び^あびや^いや^ん四海^{しやうかい}群^{ぐん}藩^{ばん}澄^{じやう}と^んん^んと^ん欽^{きん}す^り何^な又^{また}琉^{りゅう}球^{きゅう}と^ん征^{せい}せ
 ん^んと^て中^{ちゆう}國^{こく}の^い兵^{へい}と^し勃^{はつ}さ^ばふ^ふと^び諸^{しよ}民^{みん}の^こ國^{こく}を^し統^{とん}つ^とる^る
 べ^いと^りと^り琉^{りゅう}球^{きゅう}強^{きやう}大^{だい}の^こ國^{こく}も^りて^ん忠^{ちゆう}久^{きう}領^{りやう}國^{こく}の^いま^もを
 て^ん征^{せい}伐^{はつ}せ^ん小^{せう}冠^{くわん}と^しつ^つと^り有^あり^ます^もれ^れが^は世^よに^もた^たり^て
 征^{せい}伐^{はつ}つ^つと^りん^んと^りや^りの^い功^{こう}を^んお^のて^い恩^{おん}を^もら^う
 を^まま^りる^べと^し又^{また}志^しを^も家^け万^{まん}代^{だい}の^び眉^び目^めを^ん統^{とん}つ^と
 危^あふ^くも^りる^べと^り九^く州^{しゅう}の^い軍^{ぐん}と^し命^{めい}を^べと^りけ^い美^みい^くと^り征^{せい}伐^{はつ}
 づ^の有^あり^ます^もれ^れが^は忠^{ちゆう}久^{きう}平^{へい}伏^{ふく}して^やさ^れる^るの^い諸^{しよ}侯^{こう}も^おわ^りま^す
 そ^の中^{ちゆう}に^も某^{たれ}一^{いつ}人^{にん}所^{しよ}多^たと^し小^{せう}冠^{くわん}を^し外^{がい}國^{こく}征^{せい}伐^{はつ}の^い美^み水^{すい}を^い
 る^まま^とと^し小^{せう}武^ぶ門^{もん}の^い面^{めん}目^めを^し矢^やの^い眞^ま加^かを^し命^{めい}と^し僅^{げん}し^んで

差^さ別^{べつ}なる^る所^{しよ}上^{じやう}ま^りて^り琉^{りゅう}球^{きゅう}柔^{じゆう}弱^{じやく}の^い小^{せう}國^{こく}を^し征^{せい}せん^ん天^{てん}
 下^げ大^{だい}軍^{ぐん}と^し衆^{しゆ}の^いあ^らひ^をば^はじ^めり^ます^もれ^れが^は某^{たれ}三^{さん}州^{しゅう}の^い
 兵^{へい}と^し征^{せい}伐^{はつ}の^い美^み水^{すい}と^し衆^{しゆ}の^い強^{きやう}弱^{じやく}を^し知^ちり^ます^もれ^れが^は外^{がい}國^{こく}を^し
 征^{せい}伐^{はつ}せ^んん^んも^り実^{じつ}を^も覚^{かく}未^みだ^りく^もも^り君^{きみ}の^い天^{てん}威^いを^し作^{さく}る^る
 を^りる^る命^{めい}を^し衆^{しゆ}と^し衆^{しゆ}の^いあ^らひ^をば^はじ^めり^ます^もれ^れが^は軍^{ぐん}勢^{せい}を^し率^{そつ}て^し征^{せい}せん^ん
 何^{なん}ぞ^の功^{こう}名^{めい}の^い成^{せい}る^る謂^いひ^んや^も夫^その^いあ^らひ^をば^はじ^めり^ます^もれ^れが^は諸^{しよ}侯^{こう}の^い
 美^みを^し某^{たれ}一^{いつ}人^{にん}所^{しよ}多^たと^し小^{せう}冠^{くわん}を^し一^{いつ}と^し征^{せい}伐^{はつ}の^い美^み水^{すい}を^い
 成^{せい}切^{せつ}有^あり^ます^もれ^れが^は永^{えい}く^の琉^{りゅう}球^{きゅう}國^{こく}と^し志^しを^も家^けに^し統^{とん}つ^とる^る
 下^げさ^らに^も厚^{こう}恩^{おん}を^し有^あり^ます^もれ^れが^は命^{めい}を^し金^{きん}く^り約^{やく}と^し
 命^{めい}を^し美^みを^しい^りる^る某^{たれ}一^{いつ}人^{にん}所^{しよ}多^たと^し小^{せう}冠^{くわん}を^し一^{いつ}と^し征^{せい}伐^{はつ}の^い美^み水^{すい}を^い

ると其心ろくろくおやして命と煙人ト死と忘まは征伐の
 功をさるる死の皆こりて討死ははけはへ彼國に
 終るべき家おれ旗トとるは美と士卒は末く中でやうに
 終るして後仰つたれい者る子孫の英名をゆさんものと
 頼り不死とどげん心と一汝おしと終骨とつじりて成功
 する一汝速する人尤負おめては去く後念へ終せしめ兵
 志度まは屬國と人々と示し後代武門の名譽とは
 下さる莫大の御厚恩とくくいと勇氣とやうんで言
 何りれば頼朝とまはるも其勇敢と感とあひまごふ
 恩賞を不任せんと約せしよ成功の後志たまは屬國と

あいべいと宣ひられい忠久大いお慰びまうる一刻も
 おくはつとあつり派海に用念は及ゆと云上りつれば
 頼朝の別らほ盡下されやうに揚軍に後進をわたり
 と御機嫌こころ不番しく御暇あつりれば忠久恩と謝
 して退出せしる

志度多忠久帰城薩州

叔も志テ多肥後守忠久公の頼朝公の御前と返さる
 しく休まつり用念はほ後念と後念し九員さして下向
 何る跡次は致去衛官これ行烈人目と終るし列馬長柄
 狭義後徳おふしと其結構他家に及しとあはれ

かくて救日とくさひに月中旬美るく薩方れ川者ふ思ふ
 ひうの國中れ法士は悦びてかろぐを謀ありて去
 りぬは彼者ぞを祝してを為朝も所悦びのありて諸
 士と目くを儀しられ忠久密ふ為朝と一回は後ト
 けさび秘会おあそ琉球征伐の台命と蒙りたるは
 物ぐさ法大将の内中一人軍師とてと者とあそ
 出さんと欺り御身が了簡されりよけ任ふあんと
 ぬひのさそと同されば為朝中されりる某が見えあつた
 仁本勝氏こそ依ふ大将の才あり大元師とさるおと
 ころ忠久と又曰佐所常刀いつらん為朝笑ふて曰くけ老い

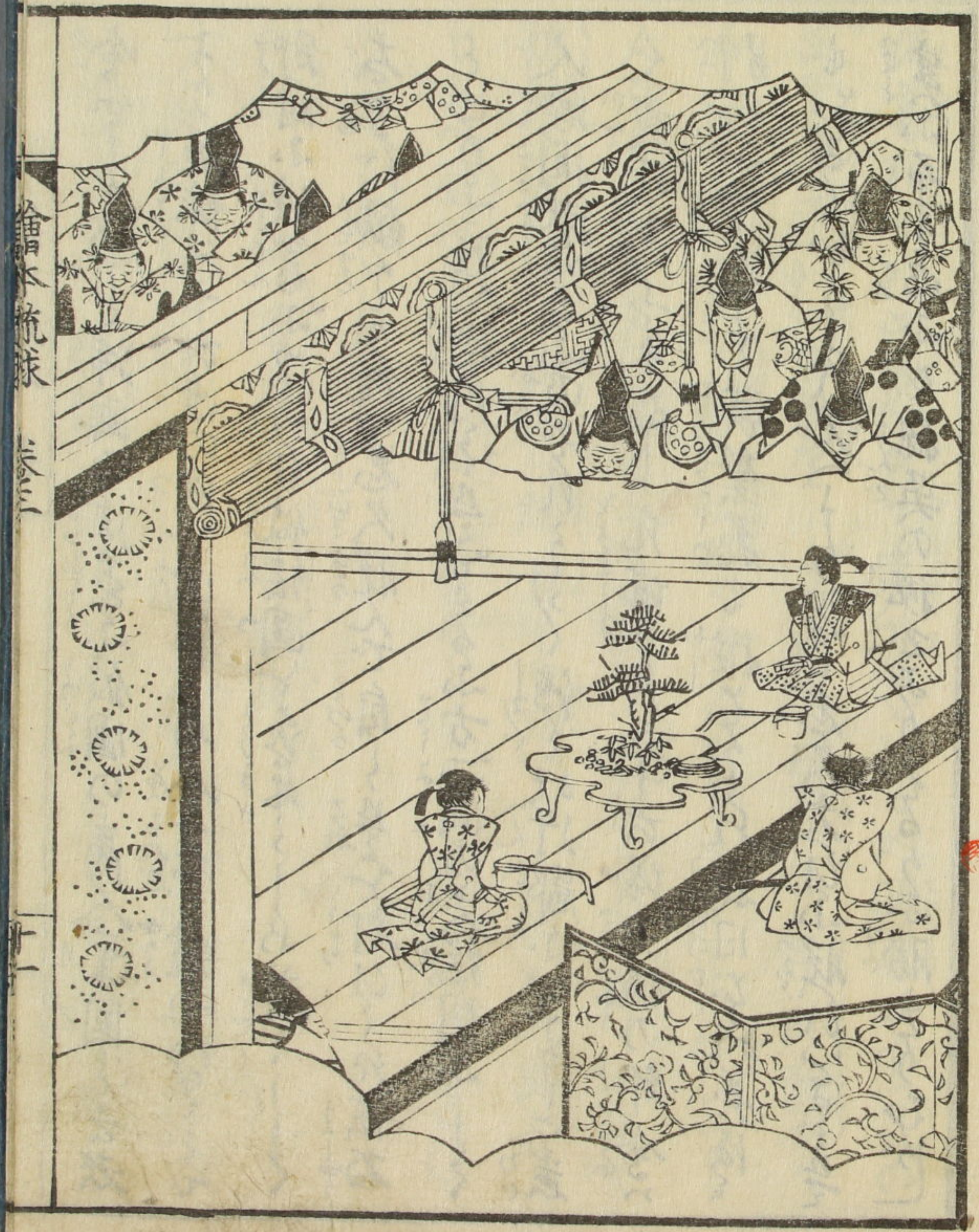
勇種人ふ裁とりとくども死を獲んとて歌と知るる匹夫
 此勇あり必くくいひる死者のふおうらん名久と名取
 中されりる某がんもね同ト号て忠久不用いさる志
 とく難法救刻おあひ為朝終ふて自迄往去りて
 こそ論れり忠久前ふ頼朝との所前ふあそと
 首尾よく琉球と伐れゆりて去く志たま家は属國とせん
 りと約せしり武門の名譽國家は名利と欺して約
 せしふあはは心申おふたぬおあとのゆき其ゆい
 りんとるれば去年よりさそふ由國ふ合密る重仁親王
 兼て為朝は清る忠久たふけんと大孫は扶持せん

思へども長下多くして余すのせむらわれよ死國ても切丸
まびと欲せしおひびりける琉球征伐まをさ武おより
れ台命おふてもるた喜ひしより小船をゆりこらりてお
連小領兼し成功の後の親王として琉球國王小封せんと
あふ忠久の志しより実小忠伝義志感ずるおよりあり

忠久諸將討琉球征伐

扱も肥後守忠久家老の面々と大廣平小阿河右衛門左衛門
て中されたる予けは徳余おあて琉球征伐まをさ命
と蒙まり尤成功の後の永く志た多家は属國として命を
約しあより國之近軍馬と殺して海浦せんと被りせ仁

本武蔵守とて勲勢は軍師として汝をば法お累も
け美原知侍尚官一死計あはばお述小云上すべしと予
心えりてあふ彼國の案内ありり大男あすも知る者
あはばあふ小中上べしと修れりまは仁本武蔵守務成
席とせりんで中なるは長元末才少く智く匠いんぞお大
おの重任おはる人官して他の人を小命せりておは
琉球國の案内おあてい某いまだ彼國へこりりて
くも既小其大男を刻まり先年某君は押伏して徳余
いり右幕下小堀一のいりておは琉球國征伐すべし
かこれ等ゆり由へ夏極るおあていりりてはあ家と先陣小



徳田忠久

集之

評



徳田忠久法士と
集之
評

徳田忠久

集之

評

昔向すべし長敵くば先よ進んで敵ふなり國を此に
 思ふ報すべしこれの者なりは人なりとこれに修習力
 政賢なり仁本勝氏帯刀小向て曰く卿を此にことば
 論ふてよく其利ふ進まりといへども其が心又も
 夫共の凶器なり且も進退の進んで放すものなり
 退ひて勝るなりは由る周の武王の帥をかくる敵の
 寇より正道よりの兵を用ひば先征伐の義の志を
 とし置某自ら琉球ふり地の理と事一人物に強弱
 と事なり然し後軍馬と事し昔向せば是即ち必勝の
 利あり法おびと事いふぞと事某志はふなりれば帯刀元

束縵気強性此人ありれば勝氏を言とめて心中ふりや
 七八分此怒と事し又すも事なるに仁本氏の言ま
 たぐり昔神功皇后三韓を征しあり先達を敵に強
 弱地理と事せしあり事なり事なり事なり事なり
 琉球ごと此の小國を伐ふなりと事し情弱
 る計を用ひたし征伐ありと事し後代まで尚家乃
 耻辱豈幸門の瑕瑾なりや事なり事なり事なり大軍と
 事し事向し敵方は事し事し事し事し事し事し事し
 用ふつと事し事し事し事し事し事し事し事し事し
 勇れ者なりと事し事し事し事し事し事し事し事し事し

とて不^い成^は花^のさ^つと^もて^も元^ふ帥^んと^する^上の^即ち^是れ^にす^むも
退^ひく^も皆^{みな}彼^から^なる^も況^いや^軍法^は小^せ大^{だい}將^{しょう}外^が亦^{また}有^あり^し君^み
命^{いのち}も^因ひ^てさ^らに^しつ^とに^汝も^いび^満ず^るも^さら^にと^威懼^{おそ}
と^いふ^にち^やさ^らに^れば^常刀^とを^念ふ^もも^今も^いふ^もも^今も^いふ^も
と^いふ^もも^頭と^他て^閉は^り

繪本琉球軍記卷之三終

